

本号の記事

○第72回全国大会（兵庫大会）概要

○全分科会の紹介

○本部活動報告

2019

## 協会ニュース 増刊号



鉄人28号モニュメント

©一般財団法人神戸観光局

平成31年3月1日発行

全国公立高等学校事務職員協会

<http://zenjikyو.jimdo.com/>

事務局：茨城県立境高等学校

電話：0280-87-0123

住所：茨城県猿島郡境町175

# 第72回 全国公立高等学校

## 事務職員研究大会

### (兵庫大会) IN 姫路

#### 1 期日・会場

- (1) 全国理事会 平成31年7月24日(水) ホテル日航姫路
- (2) 研究大会 平成31年7月25日(木)～26日(金) (第1、2、3分科会)  
 平成31年7月24日(水)～25日(木) (特別分科会)
- ・全体会 ウィンク武道館 (兵庫県立武道館)
  - ・第1分科会 // (第1道場 特設会場)
  - ・第2分科会 // (第2道場 C)
  - ・第3分科会 // (第2道場 A)
  - ・特別分科会 ホテル日航姫路及びウィンク武道館 (研修室)

#### 2 日程

時刻 月 日	9		10		11		12		13		14		15		16		17		会場		
	45	20	00	00	00	00	00	00	20	45	00	45	00	45	15	20	00	00			
7月24日 (水)									監査・ 総会機 関打合	休 憩	全国常任 理事会		休 憩	全国理事会						ホテル日航姫路	
									受 付												
									特別 分科会 受付	特別分科会											
7月25日 (木)	特別 分科会 受付	特別分科会			受 付		開会式 表彰式		休 憩	文 部 科 学 省 講 話	休 憩	全 体 会 (記念講演)		休 憩	総 会						ウィンク武道館 (兵庫県立武道館)
7月26日 (金)	受 付	分科会 (前半)				休 憩		分科会 (後半)				休 憩・ 移 動	特 別 分 科 会 集 会	開 会 式					ウィンク武道館 (兵庫県立武道館)		

第71回山口大会では、「災害級の酷暑」と西日本豪雨の影響も残るなか、「おいでませ山口へ」のご案内のとおり、心温まるおもてなしときめ細やかな大会運営、誠にありがとうございました。また、大会が成功裏に終了するまでの関係者のひとかたならぬご労苦に対し、改めて敬意を表するとともに本県視察団へのお心配りに感謝を申し上げます。

さて、第72回兵庫大会は、本年7月24日から26日まで、兵庫県姫路市のウイック武道館(県立武道館)で行われます。この会場は、普段、柔道等の競技場を大会時、会議、研修仕様に模様替えをして開催いたします。ご参加の皆様には何かとご不便をおかけすることもあるかと思いますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

会場のある姫路市は県の南西部、播州平野にある人口53万人余りの県下第2の中核市です。市内には姫路城のほかにも、映画「ラストサムライ」や大河ドラマのロケ地となった圓教寺というお寺があります。近隣には童謡「赤とんぼ」を作詞した三木露風の生誕地であり、播州素麺「揖保乃糸」で有名なたつの市や「忠臣蔵」でおなじみの赤穂市などもあります。姫路は神戸から在来線で約40分の地であり、また、県下各地への交通の要衝でもあります。大会の前後には、是非、市内はじめ神戸を含めた県内各地へお立ち寄り下さい。

また、大会参加の楽しみの一つに地元の食があります。姫路には瀬戸内の新鮮な海の幸のほかにも、しょうが醤油で食べる「姫路おでん」等のいわゆるB級グルメと播州平野が主産地である有名な酒米「山田錦」をふんだんに使用した地酒もあります。なお、これらのB級グルメや地酒は、市内中心に提供されていることから、ご参加の皆様には是非、姫路にご宿泊いただいて、じっくりと楽しんでいただけたらと思います。

最後になりますが、今大会では通常の分科会に加え、次世代の人材育成と経験等の継承を目的に、学校勤務経験の浅い方を対象とした特別分科会が開催されます。また、5月には平成から新しい時代へと変わります。新時代最初の大会となる今大会が、今後の学校事務のさらなる発展、改善の契機となると共に、若手からベテランまで世代を超えて、ご参加の皆様の交流の輪が広がり、「参加してよかった」と言っていただけの大会となるよう、準備に取り組んで参ります。兵庫大会実行委員会一同、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

---

## 全体会（記念講演）「演題未定」

---

講師 堀田 浩之 氏（兵庫県立歴史博物館 館長補佐・学芸員）

プロフィール 昭和58年の開館時から城郭史の学芸員として勤務

～最近の活動として～

- |        |            |  |
|--------|------------|--|
| ●展覧会   | ◆特別展       | 「名城ふたたび／ようこそ姫路城」（平成25年）<br>「軍士官兵衛」（平成26年）  |
|        | ◆特別企画展     | 「れきはく玉手箱」（平成29年）<br>「姫路 今むかし partⅢ」（平成31年） |
| ●講座・講演 | ◆れきはくアカデミー | 「城郭史への招待」（平成31年）                           |
|        | ◆歴史の旅      | 「姫路城内じっくり見て歩き」（平成31年）                      |

<午前部>

○ 研究発表

(1) 統合庶務システム “やさしい” マニュアル

～年度初めの手続きに重点を置いた、未経験者・教員向け～

青森県立八戸東高等学校

青森県立八戸盲聾学校

青森県立八戸第二養護学校

青森県では、統合庶務システムを導入し、職員の勤務管理や休暇、給与諸手当、旅費、臨時職員の登録などの事務手続きを行っています。しかし学校現場においては、システムの入力や使用方法について分かりにくいところがあった場合、システムのマニュアルが分かりにくいこともあり、無為に時間を消費することが多々あります。そこで、あえて学校現場のニーズに即した“やさしい”マニュアルを作成することで、システムによる事務処理を円滑に進めるとともに、年度初めの多忙な時期においても未経験者や教員が一人でシステムを使いこなせるような仕組みを研究しました。

(2) 産休・育休にまつわる仕事マニュアル

～パターン別事務処理フロー研究から学校事務職員をとりまく社会事情考察まで～

愛知県立旭陵高等学校 事務長 山崎 徳幸

愛知県立半田工業高等学校 主査 山本 愛子

愛知県立旭丘高等学校 主査 近藤 智恵子

産休・育休にかかわる事務処理は、服務にとどまらず、人事や給与諸手当、福利厚生など様々な分野と関連性がある一方、少子化により実際にその実務に携わることが少なく、事例に直面すると慌ててしまうものです。そこで、休暇取得者を含め、初めてでも難なく事務手続きが進められるよう、様々なケースやパターンに対応したマニュアルを作成し、制度理解を促進するとともに、この研究を通じてより円滑な学校事務室の運営について考えました。

(3) チーム事務室からチーム学校へ (仮題)

京都市立西京高等学校 事務職員 樋原 拓勇

京都市立伏見高等学校 事務長 花原 康弘

京都市立京都工学院高等学校 事務職員 榎本 厚也

京都市立銅駝美術工芸高等学校 事務職員 飯田 裕子

京都市立堀川高等学校 事務職員 須藤 環

京都市立日吉ヶ丘高等学校 事務職員 清水 若菜

京都市立柴野高等学校 事務職員 藤谷 文子

京都市立塔南高等学校 事務職員 岡村 俊哉

学校の事務室は、電話や窓口、文書收受など、学校と外部をつなぐ接点として機能していますが、中学校などへの広報活動や教務関係の会計には関わっていないことがほとんどです。その場

合、電話等での問い合わせに対しては教頭や授業中の教員を待つしかありません。しかし、その多くを事務室が掌握することによって、電話での問い合わせ等に速やかに応えることができ、関係者へのワンストップサービスを担うことが可能となります。そのような事務室の在り方について研究しました。



ウインク武道館：第1道場

<午後の部>

## I 基調講演

- 演題 「事務職員の『つかさどる』とは！」  
 ～ 自ら考え、自ら行動し、自ら成果を創り出すために ～
- 講師 日本教育事務学会会長  
 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部  
 副部長・総括研究官 藤原 文雄 氏

## II シンポジウム

- テーマ 「新たなステージに立つ『チーム学校』をめざして」  
 ～ 行政職員の目線で経営ビジョンを戦略化させよう ～
- シンポジスト ① 日本教育事務学会会長  
 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部  
 副部長・総括研究官 藤原 文雄 氏
- ② 文部科学省学校業務改善アドバイザー  
 コクヨ株式会社ワークスタイル研究所 主幹研究員 齋藤 敦子 氏
- 発表者 ① 山口県立豊北・下関北高等学校 事務長 小椋 聡毅 氏
- ② 兵庫県立尼崎稲園高等学校 事務長 小嶺 かずみ 氏

## ○ 問題提起

学校教育法等が一部改正され、事務職員の職務規定が「事務をつかさどる」となり、3年目を迎える。「学校経営を担う職」として位置付けた法整備を受けて「学校事務を処理する職」から「学校経営戦略のエキスパートとして学校の課題を整理し解決する職」へと一層深化した。

学校を取り巻く環境は変化し、一般的な行政事務がAI（人工知能）に代替可能となる確率は非常に高いと言われている。事務の集約化やアウトソーシングに代わる事務も今後増えていくと想定される。学校事務の中で代替される業務と行政職員ならではの業務を差別化し、かつ学校経営組織の一員として明確な地位を固め、代替できない職域として確立していかなければならない。

文部科学省の掲げる「チームとしての学校」を実現するため、改めて行政職員である私たちの職務内容を探究し「どのように変わったのか、どのように変わるべきなのか」を追究する必要がある。

本全国大会では、事務職員の「つかさどる」職務行動に精通した基調講演講師と職場（ワークプレイス）改革を推進し、学校支援活動をされている方をシンポジストに迎え、組織目標を達成できるスタッフを目指すため、会場参加者と「チーム学校」実現へ、キャリアデザインの方策を意見交換する。また、会場参加者から自身の職場で実践している学校経営参画の事例やその感想等の発表を行い、事務職員の今後の可能性と展望を討議する。

新たなステージに立つ事務職員の役割を明確化させ意識の高揚を図り、急速に発展するAI（人工知能）との共存も視野に入れて、組織活性化につなげる「事務をつかさどる」をシンポジウムで考察する。

### ○ 討議の3本柱

- 1 「事務をつかさどる」と明文化した背景の追究
- 2 職務意識・行動が「どのように変わるべきか」の探究
- 3 「チーム学校」を実現するキャリアデザインの方策

## 第2分科会 業務の改善と効率化 —実践と提案—

〈午前の部〉

### ○ 研究発表

#### *(1) ストレス時代を生き抜く方法 ～学校事務職員に適した対策を考える～*

北海道弟子屈高等学校 主任主事 新谷 恵市

人々の心身に影響を及ぼす“ストレス”の仕組みや改善方法について研究を進めてきました。その上で、学校事務職員が感じやすいストレスの状況を分析し、ストレス対策を提言する発表となっています。学校事務職員に特化したストレス対策の検証を含めた発表です。

#### *(2) ワークライフバランス ～意識を変える～*

福岡県立嘉穂総合高等学校 参事補佐兼事務次長 佐々木 志津子

福岡県立鞍手竜徳高等学校 事務主査 野村 一生

福岡県事務職員協会会員の「意識を変える」を研究目的として、平成26年度から継続的に研究を行ってきました。「ワークライフバランス」の必要性を働き方改革と関連付けて発表します。その後、①アンケート②広報誌③プレゼンテーションによる研究の具体的な取り組み及びその成果を報告します。研究大会参加者の皆さんの意識改革の一助となる発表にしたいと考えています。

## ○ グループ討議

テーマ 「働き方改革 あきらめる前に始めてみよう」  
～ 多忙はどこから？業務改善とどう向き合う？ ～

〈午後の部〉

## 講義・グループ討議（午前の部からの続き）

講師 教育研究者、学校マネジメントコンサルタント  
文部科学省学校業務改善アドバイザー  
中教審「学校における働き方改革特別部会」委員  
NPO 法人まちと学校のみらい理事 妹尾 昌俊 氏

## ○ 問題提起

政府は「一億総活躍社会を実現するための改革」の取り組みとして「働き方改革」を打ち出しており、特に「長時間労働の是正」は社会問題として大きく取り上げられている。学校現場には、平成29年6月に文部科学省が取りまとめた「学校における働き方改革に関する緊急対策」において具体的な業務改善が求められており、平成31年1月25日、中教審は働き方改革の方策をまとめ、文部科学大臣に答申を行っている。

働き方改革実現のための手段の一つとして業務改善は必須である。そこで、業務改善の必要性を認識し、動機付けを行い、効率的な仕事の進め方を実現するための方策を講じること、「学校における働き方改革」と一つにまとめられるが、私たち事務職員にとっての働き方改革とは何なのか、自分たちの働き方改革をどのように捉え推進すべきか。学校組織の一員としての働き方、そして個人としての働き方について改めて問題点を整理することが必要である。ひいては業務改善を単なる長時間労働の是正に終わらせず、専門性を活用した「つかさどる事務職員」つまり「企画系事務職員」として学校運営に参画するためのモチベーションアップに繋げていくことも重要と考える。

そこで、本分科会では「働き方改革」の意義、事務職員の立場でどのように捉え、推進すべきかを講義から学び、グループ討議をとおして業務改善の課題を探求するとともに業務改善の手法について検討し、その習得を図る。さらに、教育職員と連携し、積極的に学校運営に参画するための意識改革を目指す。

## ○ 討議の3本柱

- 1 業務改善を阻む要因の探求と解決方法の検討
- 2 時短につながる業務改善の手法の習得
- 3 学校運営への参画を意識した働き方改革実現の提案とその実践



ウインク武道館：全体像（模型）

〈午前の部〉

○ 研究発表

(1) 時代の変化に合わせた不審者対策を提案します。 ～more safe, more secure～

群馬県立桐生特別支援学校 主幹 毒嶋 実  
群馬県立太田フレックス高等学校 主事 増田 彩夏  
群馬県立大泉高等学校 主事 藤生 綾乃

各学校では不審者対策を行っていますが、被害は絶えないのが現状です。

スマートフォンの普及により手で動画検索や動画撮影が容易となり、インターネット上で誰でも物品の売買が行えることから盗品について問題視され、対策が進み始めているところです。

平成29年6月、群馬県内の県立・市立・組合立高等学校・中等教育学校・特別支援学校9校を対象に対策状況のアンケートを実施し、得られた回答の考察を含めながら、学校のセキュリティがより一層向上するよう時代の変化に合わせた不審者対策を提案します。

(2) 水害について ～平成27年9月 関東・東北豪雨に学ぶ～

茨城県立下館工業高等学校 主事 片岡 雅貴

平成27年9月に発生した関東・東北豪雨では、茨城県立鬼怒商業高校ほか3校が水没等の被害を受けました。研究テーマを、自然災害等の中で水害に絞り、各学校の防災計画に「水害に対する備え」を加えることを研究の目的にしました。河川の氾濫等による水害というこれまで経験したことのない災害に対して、学校事務職員がどのように対応したのかをまとめました。

(3) 危険察知能力向上講座っ！ ～「起こるかも」を起こさないために～

愛媛県立宇和島水産高等学校 専門員 都築 宏之  
愛媛県立南宇和高等学校 事務係長 西村 浩則  
愛媛県立津島高等学校 専門員 清水 和則  
愛媛県立宇和特別支援学校 主任 清水 かおり  
愛媛県立川之石高等学校 主任 石丸 直史

多くの命を預かる教育現場において、危機管理は教職員全員が万全に取り組むべき必須課題です。教育を取り巻く環境の変化や、昨今頻発する自然災害等を鑑み、クライシス・マネジメントに偏重しがちであった意識を変革し、リスク・マネジメントの意識を高め、システムを構築し、全教職員が確実に遂行できる危機管理体制を早急に作る必要があります。本研究では、システム構築のための意識改革および具体的な対処法について、学校現場の声をもとに検証しました。



〈午後の部〉

## I 基調講演

- 演題 「学校事務職員の災害対応力の向上をめざして」  
 ～ 学校現場における災害リスクマネジメントを考える ～  
 講師 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授 馬場 美智子 氏

## II シンポジウム

- テーマ 「教訓から学ぶ自然災害への対応」  
 ～ その時、学校・事務職員は災害にどう対応したか ～  
 シンポジスト 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授 馬場 美智子 氏  
 兵庫県立神戸甲北高等学校 事務長 梶 浩康 氏

### ○ 問題提起

近年、国内各地で想定外の甚大な自然災害が続き、複数の災害の同時発生や連鎖の恐ろしさを再認識させられると同時に、復旧・復興が進まない被災地の状況を目の当たりにしている。平成23年3月の東日本大震災はまだ記憶に新しい。このような状況下、災害時には多数の被災者の避難所となる学校が地域から求められる課題は大きいものがあると考えます。

いつ、どこで起きるのかわからない自然災害への取り組みは、日本のどの地域においても喫緊の課題でありながらどれほど実践されているのか。さらには、現在の防災・減災への理解や取り組みが、災害時に十分機能する確信はあるのか。被災後の早期復旧実現のため、どのように行動し対応したらよいのか。災害のリスクを適切にマネジメントすることは、困難な課題である。

そこで、基調講演で、発災後いかに早期復旧ができるのかを平時から考え備える事前準備、防災・減災への取り組みの重要性や、災害時において事務職員に求められる災害対応力について講演をいただき、シンポジウムでは、自然災害の被災経験者をシンポジストにお招きして、実体験や教訓から学んだ災害への備えや災害時の対処方法、早期の学校再開・復旧への取り組みや学校事務職員の災害対応力の有効性を検証し、今後の取り組みへの課題や教訓を継承していきたい。

さらに、会場参加者からの意見や質疑応答を通じ、災害時に地域において学校や私達、事務職員に求められる役割や課題について考察する。

### ○ 討議の3本柱

- 1 学校事務職員に求められる災害対応力の修得
- 2 防災・減災・復旧への事前準備の取り組みと継承すべき事象の検証
- 3 災害時、地域において学校・事務職員に求められる役割と課題の考察



<第一日目>

I 基調講演①

- 演 題 「経験の仕方を考える」 理論編  
～今日は、Team Fushimi のメンバーになってもらいます～
- 講 師 北海道公立学校事務職員協会副会長（研究）  
北海道札幌伏見支援学校 事務長 岩崎 英樹 氏

II シンポジウム

- テーマ 「いま私達（若手職員）が引き継ぐべきこと」  
～見て、聴いて、話して学ぶ 問題・課題への取り組み方～
- シンポジスト 基調講演講師 北海道札幌伏見支援学校 事務長 岩崎 英樹 氏  
中堅事務職員 山口県立山口高等学校 主任主事 大島 和也 氏
- グループ討議 参加者に兵庫県の若手職員 1 名を加えた 5 名で一組のグループを作り、  
シンポジウムで出された課題などについて、討議を行う。  
ここで編成されたグループは、第二日目のワールドカフェ方式討議の  
スタート時のグループになる。

III 基調講演②

- 演 題 「事務職員のやりがいを考える」 実践編  
～北海道札幌伏見支援学校開校物語～
- 講 師 北海道公立学校事務職員協会副会長（研究）  
北海道札幌伏見支援学校 事務長 岩崎 英樹 氏  
シンポジウムに引き続き、講師による実践編の講義を聴く。その中で、出された課題等を第二日目の討議テーマとする。

<第二日目>

I グループ討議（ワールドカフェ方式）

- テーマ 「学校事務職員としての仕事の流儀」  
～事務職員から事務職人となるために～
- カフェ・ホスト 全国公立高等学校事務職員協会、兵庫大会実行委員会

○ 問題提起

全国的な課題として、大量退職時代を迎えた近年、新規採用職員が増加する一方、知事部局等との人事交流などにより、仕事を教え、伝えるべき中堅職員である 30～40 代の学校事務職員が減少している。そうした現状の中、仕事を伝承できる人材の育成・確保が急務となっている。

そこで特別分科会では、全国から推薦を受けた若手職員が一堂に会し、「若手職員の悩みや課題と解消に向けた取組、改善方策」や「学校事務職員として期待されるもの、これからの学校事務職員は、ど

うあるべきか」などのテーマについて、意見交換、討議する。

- ①基調講演では、仕事への取り組み方やキャリアプラン、モチベーション等について学ぶ。
- ②シンポジウムでは、人材育成を実践している管理職や先輩職員から「学校事務職員として期待されるもの、これからの学校事務職員は、どうあるべきか」について、また、「若手職員の課題や解決に向けての提案」などを聴く。会場をグループに分け（1G＝5名程度）、提案された内容について、討議し、話し合った内容を発表、シンポジストから助言をいただく形で進める。
- ③ワールドカフェでは、基調講演及びシンポジウムで提起された課題や各協会の現状、改善方策等について、自由な意見交換、討議を行い「見て、聴いて、話して学ぶ」ことにより、コミュニケーション能力を高めるとともに全国の若手職員と情報共有する機会を提供する。

また、特別分科会で得た各協会の情報や経験等を自身の協会へ持ち帰り、研究・研修活動の企画運営や仕事の工夫・改善に役立て、次世代を担うべき人材育成の一助となる分科会として実施する。

## 本部活動報告

### ●常任理事会（東京・小山台会館）

- 1月18日 ・第2回兵庫大会合同打ち合わせについて  
・平成31年度事務職員研修会について

### ●第2回兵庫大会合同打ち合わせ会（兵庫県 ウィンク武道館ほか）

- 1月22日～23日 ・会場視察

### ●本部理常任理事異動 ・退任(1/31付) 山口一夫(埼玉県立草加高等学校)

## 編集後記

表紙の写真は、神戸市出身の漫画家で横山光輝（よこやまみつてる）さんの作品で、まちを盛り上げようと、地元商店街などが中心となってNPO法人を立ち上げ、震災復興と地域活性化のシンボルとして期待を託して作られたものです。高さは15.6mで直立した場合の高さは18mになるように制作されたそうです。ちなみにこぶしの大きさは直径が1.8m（大人の身長ほど）です。興味のある方は全国大会終了後の帰り道にお立ち寄りください。（最寄り駅は新長田駅です。）

ところで今年開催される兵庫大会は、特別分科会を設定しました。特徴として、若手職員を対象に構成し、基調講演やシンポジウムはかなり面白い内容になっているようです。

参加された若手職員の全ての方が、「参加してよかった。」「来年の全国大会はお前（後輩）が行って来いよ。」などの感想・感動を持ち帰ることを目標にしているようです。（分科会責任者談）

○全国協会HPアドレス <http://zenjikyو.jimdo.com/> 「全国公立」で **検索**可能です。

○「協会ニュース」に関するお問い合わせは広報部編集担当まで

千葉県立松戸特別支援学校／川島

電話 047-388-2128

FAX 047-388-4781

Mail:t.kwshml0@pref.chiba.lg.jp

茨城県立取手第二高等学校／柴崎

電話 0297-73-0049

FAX 0297-73-7821

Mail:sibasaki.seiji@post.ibk.ed.jp

茨城県立伊奈高等学校／宇佐美

電話 0297-58-6175

FAX 0297-58-9248

Mail: usami.fukumi@post.ibk.ed.jp